

## リニモ沿線地域づくり構想の取組実績等

## 1 リニモ沿線地域づくり構想の取組実績

## (1) 愛・地球博の成果を継承・発展させるまち【将来像1】

## ① 環境共生型の暮らしが根付くまちづくり &lt;基本方針1&gt;

(自然環境の保全に配慮した計画的な市街地整備)

- 駅を中心としたコンパクトな市街地整備を推進するとともに、あいち海上の森センターでの里山の保全や森林の育成を行なう等、環境をテーマにした愛・地球博の開催地域として、駅周辺の開発と周辺の自然環境の保全とが調和したまちづくりに取り組んだ。

【土地区画整理事業等の取組状況】

取 組	駅	整備面積	取組状況
長久手中央土地区画整理事業	長久手古戦場駅	約 27ha	整備中
日進東口論義土地区画整理事業	長久手古戦場駅 /芸大通駅	約 27ha	地権者協議段階
公園西駅周辺土地区画整理事業	公園西駅	約 21ha	整備中
八草地区市街地整備事業	八草駅	約 51ha	地権者協議段階

【民間開発等による住宅地整備】

取 組	駅	整備面積	取組状況
三ヶ峯地区住宅地整備	公園西駅	約 14ha	分譲開始
前熊一ノ井地区	公園西駅	約 17ha	地区計画決定
サンヒル上之山宅地開発事業	八草駅	約 10ha	分譲開始

(低炭素社会を実現するまちづくり)

- 沿線の施設の整備にあたっては、太陽光発電や風力発電、雨水再利用設備、屋上緑化等のエコ技術を積極的に導入した。

【エコ技術の導入】

施 設	導入したエコ技術
地球市民交流センター	太陽光発電、風力発電、屋上・壁面緑化、クールチューブ等
あいち産業科学技術総合センター	太陽光発電、雨水再利用設備、複層ガラス、クールチューブ等

(自然や身近な緑と親しめるまちづくり)

- 「農のある暮らし、農のあるまち」を目指した取組(長久手市田園バレー事業)を推進した。

【田園バレー事業の取組】

取組	利用者数等
あぐりん村の運営	利用者数 H20:約40万人 ⇒ H26:約47万人
遊休農地の解消	遊休農地面積<前熊堀越地区>H20:8.2ha ⇒ H26:2.8ha
長久手農楽校の開催	修了者数 H26:35人 (H21~H26累計:197人)
長久手ふれあい農園の開設	利用者数 H26:66人 (H21~H26累計:396人)

- あいち海上の森センターや愛・地球博記念公園(もりの学舎)において、森づくり・里づくりや自然体験プログラム等の環境学習に取り組んだ。また、あいち海上の森センターでは、遊歩道(600m)と遊歩施設(窯の歴史館、繭玉広場、物見の丘等)を改修し海上の森ツアーコースとして供用した。

【環境学習の取組】

施設	参加者数等
あいち海上の森センター (H18.9.25開館)	来館者数 H26:19,132人 (H27.6.6累計20万人達成) 体験学習プログラム参加者数 H26 延べ647人
もりの学舎 (H19.3.25開館)	来館者数 H26:48,765人 (H27.7.12累計40万人達成) 体験学習プログラム参加者数 H26:18,475人

② 文化・レク施設等に人々が賑やかに集い、楽しく交流するまちづくり <基本方針2>

(沿線施設の連携と民間活力を活用した「にぎわい」づくり)

- 愛・地球博記念公園の整備を進めるとともに、沿線の文化・レクリエーション施設と一体となったイベントを実施するなど、沿線の交流人口の拡大に取り組んだ。

【愛・地球博記念公園の整備状況等】

年度	整備状況<全体計画面積194.2haのうち149.8haの供用済み>	年間利用者数
平成20年度	大芝生広場、花の広場、西エントランス広場等供用開始(4/1)	121万人
平成21年度	野球場、南駐車場、あいちアートスクエア供用開始(4/1)	127万人
平成22年度	地球市民交流センター供用開始(10/1)	128万人
平成23年度	食の広場供用開始(4/1)	132万人
平成24年度	サイクリングコース、テニスコート、フットサル場供用開始(4/1) 多目的球技場供用開始(10/1)	148万人
平成25年度	あいちサトラボの一部「農のエリア」供用開始(6/1)	157万人
平成26年度	備蓄倉庫供用開始(4/1)	157万人
平成27年度	公園西駅側に歩行者専用ゲート供用開始(8/13) 野外音楽施設供用開始予定	

【主なイベントの実施状況】

取組	概要	参加者数
リノモ沿線ウォーキング	沿線地域の自然や名所、観光施設等をウォーキングで巡り、その魅力に触れるイベントを開催（H19～）	H26 ： 16,800人
わくわく体験リノモツアーズ	夏休み期間中、沿線施設において小学生を対象とした体験講座等を用意し、社会学習等の機会を提供（H21～）	H26 ： 2,283人
夏休み親子教室	親子向けに、リノモ体験乗車と愛・地球博記念公園を会場とした工作教室等を実施（H23～）	H26 ： 1,314人
リノモ沿線ミュージアムウィーク	リノモ沿線の文化施設が連携して、文化フォーラムやリレーコンサート、スタンプラリーなどを実施（H23～H25）	H25 ： 6,532人
愛知ぼぷかる聖地化計画	愛・地球博記念公園でポップカルチャーの総合イベントを開催。（H22～）	H26 ： 20,000人
愛・パーク（瀬戸万博記念公園）イベント	愛・地球博を懐かしむとともに、愛・地球博の理念を継承することを目的に愛・地球博開幕10周年記念イベントを実施（H26）	H26 ： 18,600人
リノモ沿線合同大学祭	リノモ沿線大学の学生有志による合同大学祭（H24～）	H25 ： 4,200人
沿線大学学生等によるイベント	スイーツ展覧会、スイーツフェスティバル等の開催 学生による稲作活動、もちつき大会の開催 リノモやロボットで楽しもうイベントの開催 モリコロパーク d e 地元グルメイベントの開催 ぼぷかる連携インタラクティブアートを通じた沿線活性化イベントの開催	

③ 新しい地球市民交流・市民参加活動が生まれるまちづくり <基本方針3>

（地域全体で取り組む「市民力」アップ）

- 愛・地球博記念公園に地球市民交流センターを整備し、市民活動の新たな拠点として供するとともに、NPO等の参画する「公園マネジメント会議」を設置し、市民協働、市民参加による愛・地球博記念公園の管理運営を推進した。

【地球市民交流センター整備等】

取組	取組状況
地球市民交流センターの整備	平成22年10月 地球市民交流センター供用開始 パートナー数 170（H26） パートナーによるプログラム数及び参加者数 プログラム数 317 参加者数 183,774人（H26）
愛・地球博記念公園公園マネジメント会議	平成21年3月 公園マネジメント会議設置 参加団体数 86団体（H26）

- NPOと連携し、沿線での交流イベントを開催した。

【交流イベントの開催状況】

交流イベント名	概要
リノモでワールドラリー（H23）	リノモ各駅を外国に見立てて、リノモ沿線をめぐることにより世界を旅するという設定でのスタンプラリーを開催
ゆめのノリモノ～世界の子も絵画展～（H24）	5歳児から小学生を対象に、未来の乗り物をテーマとした絵画展を開催
リノモは1日イングリッシュタウン！「リノモでハロウィン」（H26）	リノモ各駅及び沿線施設を巡るイベントラリーを開催。国際色豊かなボランティアとゲーム、クイズ、歌、ダンスなどで交流

#### ④ 環境分野等の先進的取組を通じ、課題に挑戦しつづけるまちづくり <基本方針4>

(大学、NPO、企業等が連携した先進的取組の場・機会の提供)

- リリモ沿線の環境学習施設でのエコマネーポイントの発行や沿線コミュニティバスでのバスロケーションシステムの導入、豊田市保見地区でのデマンドバスの社会実験を行った。

【先進的取組等の状況】

取組	概要
エコマネーポイントの発行	もりの学舎やあいち海上の森センターの来訪者にエコマネーを発行
バスロケーションシステムの導入	Nバス（長久手市）、くるりんバス（日進市）に導入（H26.3～）
デマンドバスの社会実験	豊田市保見地区でデマンドバスの社会実験の実施（H22.2）

### (2) 愛知の新たな飛躍をリードする研究学園地区 【将来像2】

#### ① 最先端の科学技術の共同研究や実証実験が行われ、世界に発信するまちづくり

<基本方針5>

(科学技術の創造拠点の形成)

- 知の拠点あいちは、平成24年2月にあいち産業科学技術総合センター、平成25年3月にあいちシンクロトン光センターの整備を完了し、供用を開始した。あいち産業科学技術総合センターにおいて重点研究プロジェクトを始めとした産学行政による共同研究開発や高度分析機器を用いた依頼試験等を行なうほか、あいちシンクロトン光センターではナノレベルの計測分析等を行なっている。

【知の拠点あいちの整備状況等】

施設	概要
あいち産業科学技術センター	<位置づけ> 知の拠点あいちの中核施設 <機能> 産学行政による共同研究開発の推進、高度計測分析機器による依頼試験、研究成果の活用支援、科学技術の普及啓発、次世代のモノづくりを担う技術人材の育成
あいちシンクロトン光センター	<位置づけ> 産業利用を主目的とした地域共同計測分析施設 <機能> ナノレベルの計測分析

## ② 地域内外の大学・研究機関の相互連携、研究交流が盛んなまちづくり <基本方針 6>

(学生や研究者が活動しやすい環境づくり)

- 愛知県農業総合試験場や愛知県立芸術大学の施設の充実等を図った。

### 【施設整備状況等】

施設	取組状況
愛知県農業総合試験場	特産野菜研究室（弥富市）を廃止、農業総合試験場内に次世代施設野菜研究室の設置（H27.4～） 大学との研究協力協定の締結 名古屋大学大学院生命農学研究科（H19.1） 中部大学応用生物学部（H24.7） 名城大学農学部（H25.9）
愛知県立芸術大学	大学院博士後期課程開設（H21～） 新音楽学部校舎の整備完了、使用開始（H25～） 文化財保存修復研究所の設立、運営開始（H26～）

(大学・研究機関による地域連携活動の展開)

- 沿線の施設による科学教室等を開催するとともに、学生による沿線活性化のための調査研究を行なった。

### 【地域連携活動の状況】

施設等	取組状況
知の拠点あいち	知の拠点あいち見学者数 H26：3,997人 (H24.1～H26 累計：23,255人) 子ども科学教室参加者数 H26：242人/5回 研究プロジェクト一般公開デー H26：163人 サイエンスフェスタ H26：129人
農業総合試験場	農業総合試験場公開デーの開催 H26：参加者数 1,028人 (研究成果展示、研究施設見学、講演会、生産物販売等)
デジタルコンテンツ	携帯情報端末向けデジタルコンテンツ（未来科学技術体感ルート）の制作、配信
学生による調査研究	リニモ・N・バス・徒歩でつながるまちとヒト 学生のリニモ利用を促進するまちづくりのあり方 古戦場地区における大学生集客の可能性に関する調査 あんどん行事の復興 大学・研究施設と地域コミュニティとの連携事例研究等

### (3) リニモでつながる「コンパクト」なまち 【将来像3】

#### ① 駅ごとに特色ある都市機能が集積したまちづくり <基本方針 7>

(各駅の機能・役割に応じた都市的土地利用の誘導)

- 土地区画整理事業等による住宅地整備を進めるとともに、地区計画制度を活用し民間開発による住宅地整備を推進した。

【住宅地整備の状況】

駅	取組	計画人口・計画戸数	取組状況
長久手古戦場駅	長久手中央土地区画整理事業	計画人口：1,730人 計画世帯数：692世帯	整備中
長久手古戦場駅/ 芸大通駅	日進東口論義土地区画整理事業	—	地権者協議段階
公園西駅	公園西駅周辺土地区画整理事業	計画人口：1,200人 計画世帯数：480世帯	整備中
	三ヶ峯地区住宅地整備	販売戸数：315戸	分譲中
	前熊一ノ井地区計画	—	地区計画決定
八草駅	八草地区市街地整備事業	—	地権者協議段階
	サンヒル上之山宅地開発事業	販売戸数：201戸	分譲中

- 長久手古戦場駅、公園西駅周辺の土地区画整理事業において、駅周辺への商業施設の出店調整を行なうとともに、公共公益施設の設置に向けた検討を行なった。

【商業施設の立地予定】

駅	取組	概要
長久手古戦場駅	イオンモール出店予定	平成21年11月21日にイオンリテール株式会社を協力事業者として選定
公園西駅	イケア出店予定	平成25年1月28日にイケア・ジャパン株式会社を事業予定者として選定

#### ② 駅と背後圏が有機的に連携したまちづくり <基本方針 8>

(周辺施設とのネットワークの強化)

- 愛・地球博記念公園駅や八草駅等におけるパーク&ライド駐車場の拡張やコミュニティバスの運行、また沿線大学へのリニモ駅間とのバスの運行の働きかけ等、リニモ各駅へのアクセス向上を図った。

【パーク&ライド駐車場の整備状況】

駅	概要
愛・地球博記念公園駅	平成 21 年 3 月に駐車可能台数を 210 台から 231 台に拡張及び料金を 3,000 円／月から 1,500 円／月に改正。平成 25 年 2 月に駐車可能台数を 246 台に拡張。 【平成 27 年 7 月末現在】 駐車可能台数：246 台、登録者数：252 名
八草駅	平成 23 年度に駐車可能台数を 55 台から 170 台に拡張 【平成 26 年度】 駐車可能台数：170 台、年間利用台数：38,533 台
イベント時における 臨時のパーク&ライド	クラシックカーフェスティバル開催時にトヨタ博物館駐車場にて実施 (駐車可能台数：400 台) 全日本うまいもの祭り等の大規模イベント時にリニモ会社駐車場にて実施 (駐車可能台数：77 台)

【コミュニティバス・スクールバスの運行状況】

駅	コミュニティバス	スクールバス等
長久手古戦場駅	N-バス中央循環線（長久手市） くるりんバス中央線（日進市）	愛知学院大学、 名古屋外国語大学・名古屋学芸大学（H22.4 開設） 愛知医科大学（H26.4 開設）
芸大通駅	N-バス東部線（長久手市） くるりんバス北コース（日進市）	—
公園西駅	N-バス三ヶ峯線	名古屋商科大学
愛・地球博記念公園駅	—	南山大学瀬戸キャンパス
八草駅	瀬戸市コミュニティバス 保見地域バス	愛知工業大学

③ 活発なコミュニティにより持続的に発展するまちづくり <基本方針9>

(沿線の演出等によるアイデンティティの形成)

- 沿線施設の特徴を活かしながら沿線住民が協力、参加できるシーズン毎のイベントの開催や、市街地整備に際しては沿線住民等によるまちづくりについての検討を行なった。

(新しいライフスタイルを支えるコミュニティの形成)

- シンポジウムの開催や WEB ページでの沿線情報の一体的提供等を行ない、沿線全体での地域情報の共有を図った。

【沿線情報の一体的提供等の状況】

取組	概要
リニモ沿線地域づくりシンポジウムの開催	リニモ沿線地域づくり構想の周知を図るため、まちづくりの基調講演やパネルディスカッションを行なった。(H21.11)
リニモ沿線動画の作成、公開	リニモからの車窓や沿線施設を紹介する動画「リニモの車窓から」を作成し、WEB 上で公開。(H22～)
フェイスブックページの作成、公開	リニモ沿線地域の情報を発信するフェイスブックページ「リニモとぴっくす」を作成し、公開。(H23～)
地域情報の発信	リニモ沿線地域にある観光地や特産品等の地域情報を「感動十景（フリーペーパー）」に掲載し、情報発信した。(H24 春号)
沿線大学学生と連携した情報発信	リニモ及びリニモ沿線地域の情報案内アプリケーション配信 リニモ沿線おでかけマップの作成

## 2 居住人口、交流人口の現状

### (1)居住人口

平成 20 年 (2008 年)	平成 27 年 (2015 年)
12,300 人	13,500 人

※各駅周辺概ね 1 k m圏内の居住人口（「長久手古戦場駅」～「八草駅」）

### (2)交流人口

平成 19 年 (2007 年)	平成 26 年 (2014 年)
14,000 人/日	16,000 人/日

※通勤・通学や施設利用など沿線地域外からの流入人口  
（「長久手古戦場駅」～「八草駅」及び「海上の森」）



地域の将来像実現に向けた基本戦略及び主要施策一覧

参考（現構想の体系）

将来像	基本方針	基本戦略
愛・地球博の成果を継承・発展させるまち	1. 環境共生型の暮らしが根付くまちづくり	1. 自然環境の保全に配慮した計画的な市街地整備
		2. 低炭素社会を実現するまちづくり
		3. 自然や身近な緑と親しめるまちづくり
	2. 文化・レク施設等に人々が賑やかに集い、楽しく交流するまちづくり	4. 沿線施設の連携と民間活力を活用した「にぎわい」づくり
3. 新しい地球市民交流・市民参加活動が生まれるまちづくり	4. 環境分野等の先進的取組を通じ、課題に挑戦しつづけるまちづくり	5. 地域全体で取り組む「市民力」アップ
		6. 大学、NPO、企業等が連携した先進的取組の場・機会の提供
愛知の新たな飛躍をリードする研究学園地区	5. 最先端の科学技術の共同研究や実証実験が行われ、世界に発信するまちづくり	7. 科学技術の創造拠点の形成
		8. 技術先端型企業等の研究開発機能の誘導
	6. 地域内外の大学・研究機関の相互連携、研究交流が盛んなまちづくり	9. 学生や研究者が活動しやすい環境づくり
		10. 大学・研究機関による地域連携活動の展開
リノモでつながる「コンパクト」なまち	7. 駅ごとに特色ある都市機能が集積したまちづくり	11. 各駅の機能・役割に応じた都市的土地利用の誘導
	8. 駅と背後圏が有機的に連携したまちづくり	12. 周辺施設とのネットワークの強化
	9. 活発なコミュニティにより持続的に発展するまちづくり	13. 沿線の演出等によるアイデンティティの形成
14. 新しいライフスタイルを支えるコミュニティの形成		

主要施策	主要施策の主な取組エリア						
	古戦場	芸大通	公園西	記念公園	陶磁資料	八草	海上の森
1. ④駅を中心に概ね1km圏内の市街地整備の推進 2. ④森林・農地の適正な維持管理(あいち森と緑づくり税活用による里山林整備等)	●	●	●	●	●	●	●
3. ⑤エコ技術の導入(太陽光発電、屋上・壁面の緑化等) 4. ⑤「エコモビリティライフ」の推進(通勤転換、パーク&ライド等)	●	●	●	●	●	●	●
5. ④家庭菜園を備えるなどゆとりある住宅の整備促進 6. ④水と緑のネットワーク形成の推進(ウォーキングロード等の充実) 7. ④田園バレー事業の推進(地産地消の推進等) 8. ④環境学習の促進	●	●	●	●	●	●	●
9. ④愛・地球博記念公園の集客力の充実強化 10. ④瀬戸万博記念公園(愛・パーク)の活用 11. ④沿線施設の組織化及び沿線の一体となったイベントの実施 12. ④企業、大学等が参画した交流イベント等の実施(合同学園祭等)	●	●	●	●	●	●	●
13. ④愛・地球博記念公園における地球市民交流センターの整備 14. ④一市町村一国防レンドシップ、万博ボランティアの継承・充実	●	●	●	●	●	●	●
15. ④エコマナー活動・ゼロエミッションの取組 4. ④「エコモビリティライフ」の推進(通勤転換、パーク&ライド等)(再掲) 16. ④IT技術を活用した交通情報等の共有(WEBによるリノモビ等)	●	●	●	●	●	●	●
17. ④「知の拠点」の整備(先導的中核施設、中部シンクロトン光利用施設(仮称)等) 18. ④国機関等の研究施設の早期誘致					●		
19. ④民間企業の研究開発施設など産業集積用地の整備						●	
20. ④駅周辺での芸術活動の場の整備の推進 21. ④愛知県農業総合試験場の機能強化(研究環境の整備、研究交流の充実等) 22. ④愛知県立芸術大学の充実 23. ④沿線大学のコンソーシアム形成等による連携強化	●	●	●	●	●	●	●
24. ④青少年などへの科学技術の啓発活動の推進(サイエンスカフェ等) 25. ④大学による地域貢献活動の充実(大学による市民講座、生涯学習の提供等)	●	●	●	●	●	●	●
26. ④長久手古戦場駅、公園西駅、八草駅周辺への集約的な都市的土地利用の誘導 27. ④駅周辺への利便施設、コミュニティ・公共公益施設の配置	●	●	●	●	●	●	●
28. ④パーク&ライド駐車場の整備・促進 29. ④背後圏をつなぐアクセス道路の整備 30. ④テーマ性のあるプロムナードの形成(沿線施設へのプロムナード整備) 31. ④フィーダー交通の充実(周辺住宅団地との連携強化等) 32. ④せと・まるっとミュージアム構想を踏まえた連携の推進(瀬戸蔵と愛知県陶磁資料館の回遊等)	●	●	●	●	●	●	●
33. ④シーズンイベントの開催(芸術、電飾等を利用した地域の演出) 34. ④地域づくりのプラットフォーム構築等によるエリアマネジメント	●	●	●	●	●	●	●
35. ④世代混在住宅の誘導 36. ④ホームページ、ミニコミ誌など沿線情報の一体的提供	●	●	●	●	●	●	●

(注) 主要施策のうち、ゴシック太字はハード施策。ハード施策・ソフト施策の順に、実施時期を④⑤で整理(④:3年程度(2011年頃)で具体化する事業、⑤:目標年次2015年頃までに具体化をめざす事業)